

## 飛騨農林事務所の普及活動状況(令和8年5月末現在)

### 新たな担い手の確保

#### ■アグリパーク構想・宮川朝市におけるアグリパーク構想の展開

県のアグリパーク構想は、気軽に農業を体験し、楽しみながらノウハウを学べるスタートアップの「場」を設け、多様な主体・形の農業参画を促進することとしている。

高山市の飛騨高山宮川朝市協同組合では、「イキイキ体験プロジェクト」を立ち上げ、市内住民及び学生に向けて参加者を募集するとともに、4月28日には説明会を開催した。組合役員からは、プロジェクトの内容や活動スケジュールについての説明を行い、農業普及課からは、説明会出席者向けに農薬の取り扱いについて説明を行った。また、5月11日には、宮川朝市の様子や組合長からのメッセージ動画・写真を撮影し、SNSを通じたPR活動を支援した。

農業普及課では今後も、関係機関と連携し、各団体の掲げる目標や理念に寄り添った支援を行っていく。



【説明会の様子】

### ぎふ農畜産物のブランド展開

#### ■ほうれんそう・JA全農岐阜生産ほ場ほうれんそう初収穫

近年、飛騨管内では高齢化やパート従業員の不足などを背景に、ほうれんそうの栽培面積が減少傾向にある。

2026年3月より、こうした状況を踏まえ、JA全農岐阜は新たな取り組みとして、空きハウスを有効活用して、ほうれんそうの生産事業を開始した。

生育は順調に進み、4月27日には初収穫が行われ、1作目の収穫は5月から6月の初めにかけて行われた。その後の作付けに向けた土壌消毒も順次開始されており、クロールピクリンの適正な使用方法やゴウシュウアリタソウの防除対策について、栽培指導を行った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、ほうれんそうの安定生産を支援していくと共に、高温対策資材等を使用した時の効果について検討していく。



【初収穫テレビ取材の様子】

#### ■水稲・飛騨地域に適した湛水直播栽培の実証支援

農業者の高齢化や人手不足により、水稲の育苗等にかかる労働力の確保が課題となりつつある。予想される労働力不足に対して2025年度から、JAひだを中心としたプロジェクトチームで育苗を必要としない湛水直播栽培の実証試験が進められている。

5月7日に丹生川町、5月12日、13日に国府町で「コシヒカリ」の直播が行われ、使用資材や使用機械、作業時期等の情報収集を行うとともに播種作業をJA担当者と確認した。また、飛騨地域における適切な播種深度を明らかにするため、埋め込み調査も開始した。

また、定期的にはほ場を巡回して出芽状況の確認を行い、適切な水管理、除草剤の使用について支援を行っている。

農業普及課では、プロジェクトメンバーと連携して調査を進め、引き続き湛水直播栽培の飛騨地域での実用性等を検証していく。



【播種深度別の出芽状況調査】